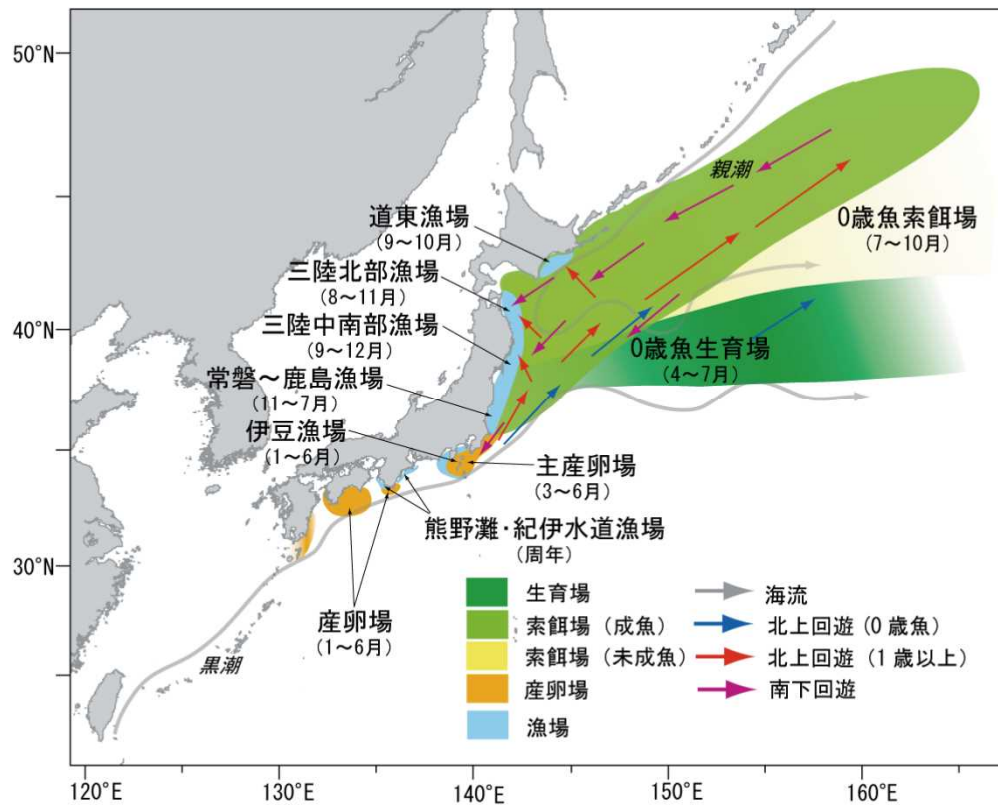




マサバ ゴマサバ  
平成30年度資源評価結果

# マサバ太平洋系群 生物学的特性

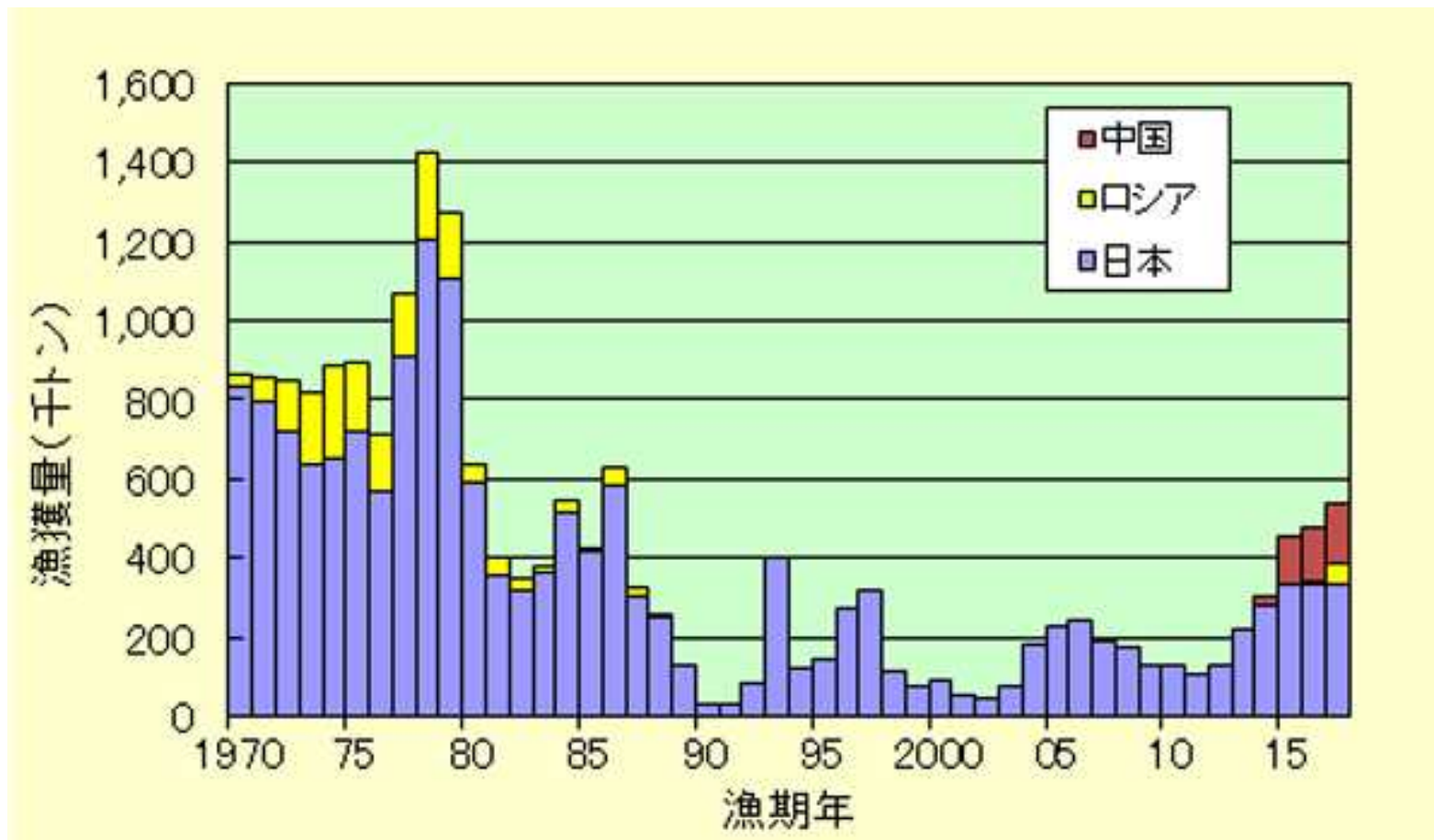
## マサバ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図



### 生物学的特性

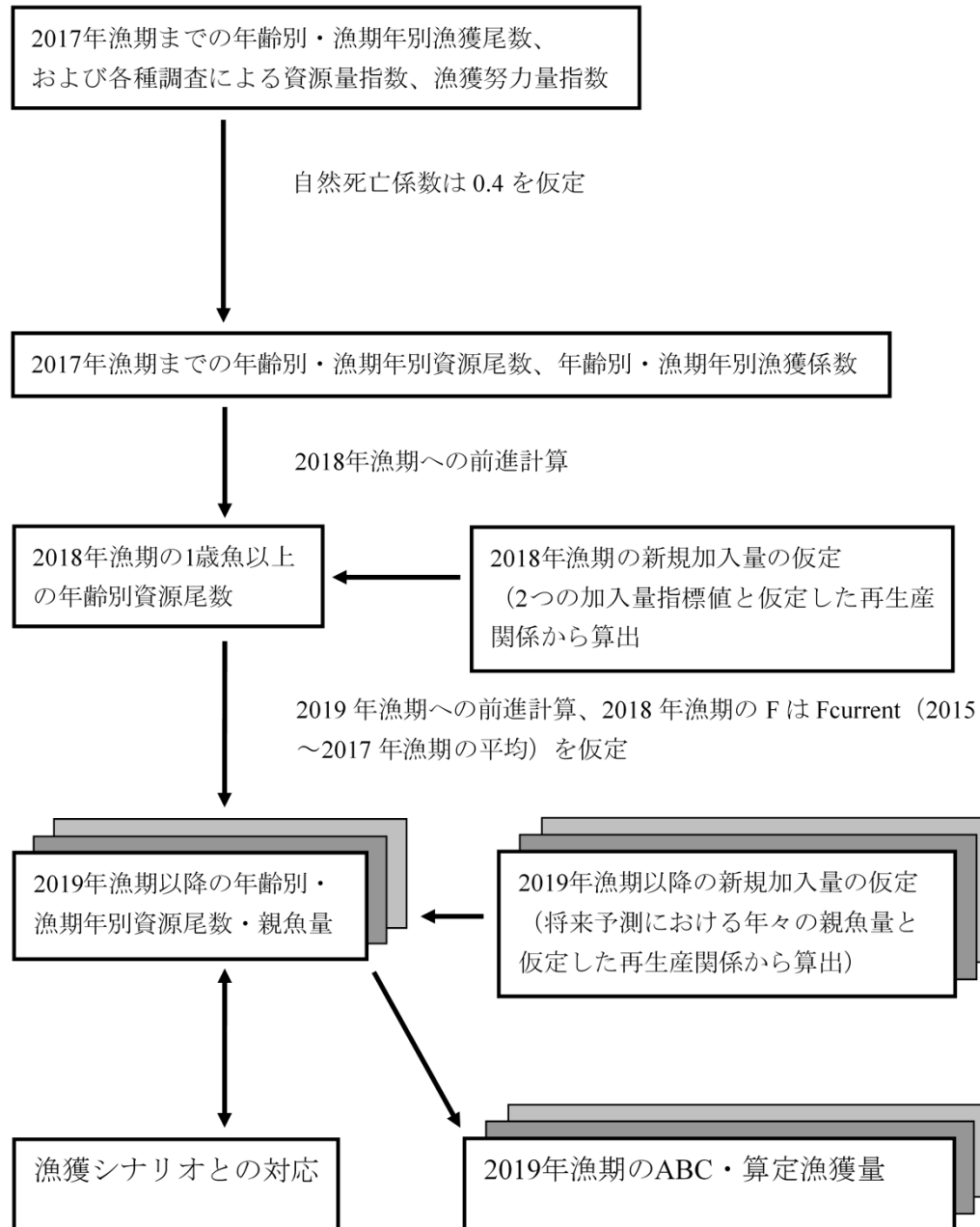
- 寿命：7～8歳（最高11歳）
- 成熟開始年齢：1970～1975年、2015～2017年は2歳（20%）、1976～1986年は2歳（30%）、2005～2014年は2歳（50%）など、年により異なる
- 産卵期・産卵場：1～6月、主に伊豆諸島周辺海域（3～6月）、他に足摺岬、室戸岬周辺や紀南などの太平洋南部沿岸域や東北海域
- 食性：稚魚は動物プランクトン、幼魚以降はカタクチイワシなどの魚類やオキアミ類などの甲殻類、サルパ類など
- 捕食者：サメ類などの大型魚類、ミンククジラ

# 漁獲の動向

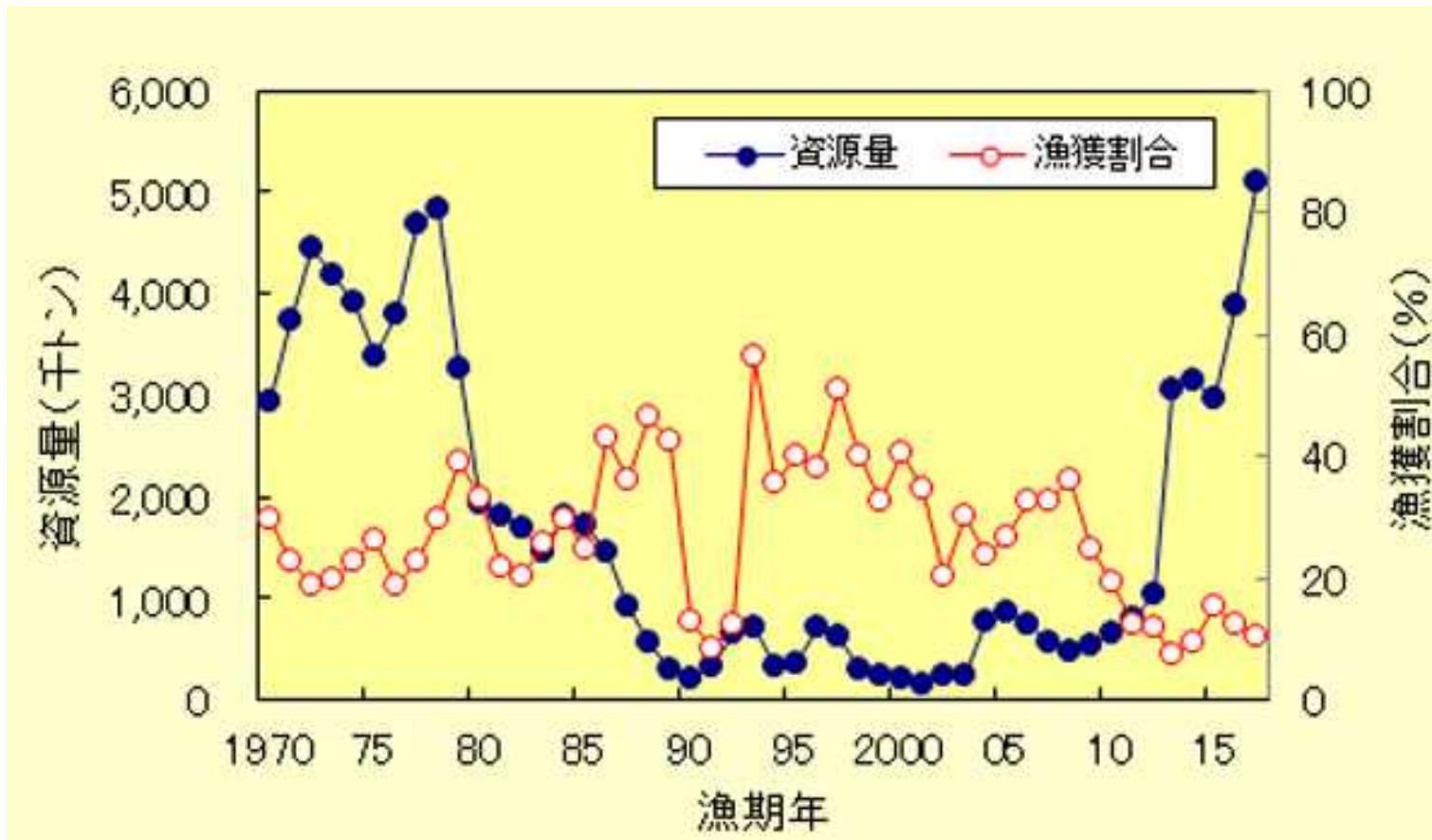


- 1990、1991年漁期に3万トン程度まで落ち込むが、2013年漁期以降増加  
2017年漁期の我が国漁獲量 33.1万トン

# 資源評価の流れ

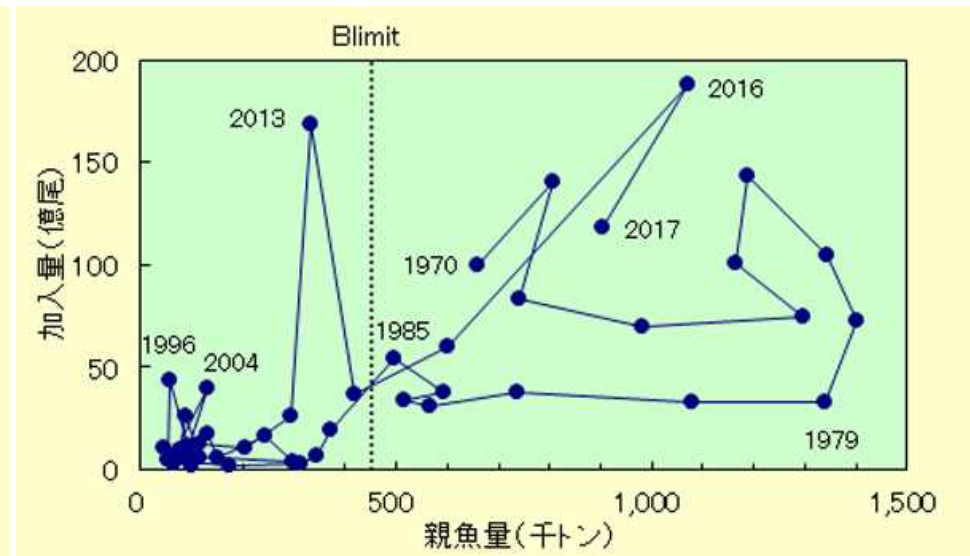
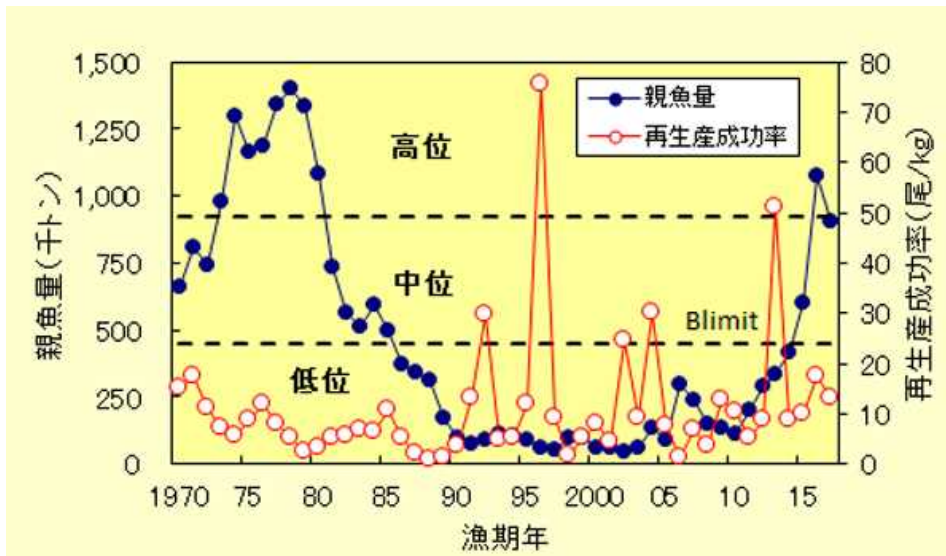


# 資源の動向①



- 資源量： 2013年の極めて高い加入量により、2013年は305万トンとなり、その後もさらに増加  
2017年は509万トン

## 資源の動向②



※水準区分 低位／中位: Blimit (45万トン)  
 中位／高位: 親魚量の最高～Blimitの中間値 (92.5万トン)

- 親魚量: 2017年は90.6万トン
- Blimit: それを下回ると再生産成功率の年変動が大きくなり、加入量水準が低下する親魚量(45万トン)
- 2017年の親魚量はBlimitを上回る中位水準
- 動向は過去5年間(2013～2017年)の親魚量の推移から増加



# 資源評価のまとめ

- 7～翌年6月の漁期年単位でコホート解析により資源量を推定した。  
加入量および親魚量を反映すると考えられる4つの指標値を用いてチューニングを行った。
- 2017年の資源量は509万トン、親魚量は90.6万トンでBlimitを上回っている。
- 資源水準は中位、動向は増加。

# 2019年ABC表

資源量(2019)=7,058千トンを仮定、親魚量(2017)=906千トン、Blimit=450千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2019年 漁期ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状の F値からの 増減%)	2024年の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2024年に 2017年 親魚量を 維持	2024年に Blimitを 維持
親魚量の増大 (F40%SPR)	Target	659	9	0.22 (-42%)	1,851 (1,192~ 2,796)	100	100
	Limit	796	11	0.28 (-27%)	1,574 (971~2,405)	95	100
現状の 漁獲圧の維持 (Fcurrent)	Target	859	12	0.30 (-20%)	1,464 (882~2,268)	89	100
	Limit	1,027	15	0.38 (±0%)	1,215 (695~1,919)	68	100
親魚量の維持 (Fmed)	Target	879	12	0.31 (-18%)	1,431 (855~2,216)	87	100
	Limit	1,049	15	0.39 (+3%)	1,185 (673~1,868)	63	100